

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

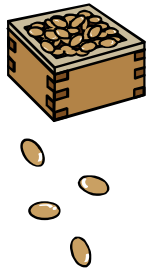
ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

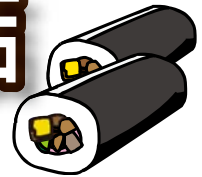


四国山の日

No.1091 2011 年 2 月号



「郷土の森」協定締結



高知県長岡郡本山町と四国森林管理局が嶺北森林管理署管内の汗見川上流に位置する竜王山国有林外（75畝）を「郷土の森」とする協定を締結しました。

【詳細は2頁以降へ】



左：本山町 今西町長


右：四国森林管理局 宮原局長



INTERNATIONAL YEAR
OF FORESTS - 2011

2011年は国際森林年です

「郷土の森」協定締結!
 「高知県・本山町 竜王山」
郷土の森」協定調印
 (計画課・嶺北森林管理署)



一二月二二日、嶺北森林管理署管内にある竜王山国
 有林外(汗見川上流に位置
 する標高一三〇〇〜一五〇
 〇(区域)において、本山町
 と「郷土の森」を設定する
 ため、協定調印式を行いま
 した。

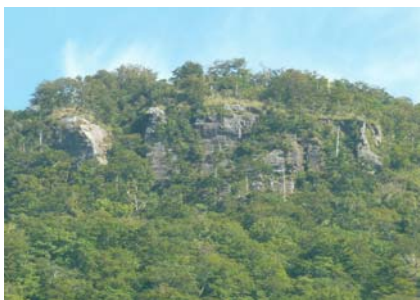
現在、四国森林管理局管
 内には、四箇所の「郷土の
 森」が設定されていますが、
 今回の設定は、七五(七)と管
 内最大規模となります。



竜王山のアケボノツツジ

今回設定する「郷土の森」

は、樹齢二百年のブナやト
 チノキ等の広葉樹、シヤク
 ナゲやアケボノツツジ等の
 花木類、希少植物も多数生
 育しており、また、地質的
 にも全国的に希少な「紅(こ
 う)れん石」の大露頭(だいろとう)が見
 られるなど、森林環境教育
 の場としては興味深いエリ
 アです。



郷土の森の紅簾石(こうれんせき)の大露頭

調印式は、本山町からは
 今西町長始め副町長など四
 名、四国森林管理局からは
 宮原局長、嶺北森林管理署
 長等六名が出席して行われ
 ました。

調印にあたり、宮原局長
 より、「地域での保存活動の

盛り上がりにより、貴重な
 天然林などを後世につなげ
 る活動を実施することは大
 変意義深いものがあります。
 是非とも地域の象徴として
 の取組をお願いします」と
 挨拶があった後、今西本山
 町長から、「本山町は、今年
 (平成二二年)は町制百周
 年の記念の年で、この契機
 に協定の調印を迎えたこと
 は大変な喜びであり、当局
 のご理解とご協力に感謝し
 ます。

この「郷土の森」の自然
 美豊かな自然環境を地域住
 民等と一体となって守りな
 がら、地域の活性化と振興
 のための取組を行い、後世
 につながる地域づくりを目
 指します」との挨拶があり
 ました。

調印式は和やかに進めら
 れ、「郷土の森」設定の協定
 書に調印した後、お互いが
 協力をし合うことの堅い握
 手を交わし、式は無事終了


しました。

平成二三年は、「国際森林
 年」の記念の年でもあり、
 本山町では、この自然資源
 を活かした情報発信も行う
 こととしており、本山町で
 の今後の取組が期待されま
 す。



握手をする今西本山町長(左)と宮原局長

森林整備推進協定を締結
 森林整備の円滑化の
 一層の推進
 (香川森林管理事務所)



平成二三年一月一日、
 香川森林管理事務所におい
 て、独立行政法人森林総合
 研究所森林農地整備センタ

徳島水源林整備事務所の
 川村所長と香川森林管理事
 務所の西村所長が、「東かが
 わ市・阿波市地域の森林整
 備推進に関する協定書」に
 署名しました。

同協定は、平成二一年七
 月に徳島水源林整備事務所
 と締結した、香川県まんの
 う町と徳島県三好市におけ
 る「勝浦・太刀野地域の森
 林整備推進に関する協定」
 に続き二件目となります。

今回も、隣接する香川県
 東かがわ市と徳島県阿波市
 において、共同施業団地を
 設定し、間伐の積極的な実
 施による長伐期施業の推進、
 作業路網の整備等に、両者
 が一体となって取り組んで
 いくことを盛り込んでいま
 す。

協定面積については、そ
 れぞれ二三〇(二)畝(清水国有
 林)、六三(六)畝(水源林造成事
 業地)の合計二九三(三)畝です。
 今後においても、相互の

森林整備の円滑化を推進していくため、他の隣接箇所についても協定締結に向け取り組んでいくこととしています。



左：西村所長、右：川村所長

**四国森林・林業
研究発表会を開催**
〈指導普及課〉

一月二四日・二五日、高知会館(高知市)において、「平成二二年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

先ず、宮原局長から、「今回発表される課題は、国民のニーズに応えた多様な森林づくりやニホン

ジカ被害防止対策、森林環境教育の取組など幅広い内容であります。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくりなどに反映されることを期待します。」と挨拶がありました。

五八回目を迎えた今年の研究発表会は、局署等のほか、教育機関、各研究機関等から二三課題(特別発表を含む)が発表されました。特に、ニホンジカによる

る食害に関する発表が四課題あり、早急に取り組むべき課題であることを再認識させられました。また、四万十市立口屋内小学校、美馬市立江原中学校、高知県立四万十高等学校及び高知県立高知工業高等学校から、学習活動の一環として取り組んでいる内容について発表があり、会場から多くの拍手が送られました。



ふるさと口屋内の自然を大切に(口屋内小学校)

一日目には、松山東雲女子大学名誉教授の石川和男氏による「タカ類の保全と生物多様性」タカは健全な生態系のシンボル」と題した特別講演を行いました。



松山東雲女子大
石川名誉教授(特別講演)

石川氏からは「生物多様性の保全等を図ることを目的として、生物多様性条約(一九九二年国連環境開発会議(地球サミットに先立ち採択)が締結され、その後の国内の法律等の整備や

昨年策定された「生物多様性国家戦略二〇一〇」、同年名古屋市で開催された「生物多様性条約第一〇回締約国会議」の目的や意義について話されました。

また、クマタカ、オオタカ、サンバ、ハチクマ、ハヤブサ等タカ類の生態、見分け方や四国での生息状況について説明されました。

特に、クマタカの営巣木にはアカマツの大径木がよく利用されること、狩りは林中で待ち伏せ型であることなどを貴重な写真を交えて説明されるとともに、これらタカ類の生態系における重要さや保護することの意義、生息環境について森林地域での保全対策として、営巣中心域の望ましい条件や林業上の配慮等についての講演をいただきました。

二日間の発表を終え、独立行政法人森林総合研究所の今富所長を審査委員長と

する審査委員による審査の結果、四国森林管理局長賞として八課題(最優秀賞一課題、優秀賞三課題、奨励賞四課題)、(社)日本森林技術協会理事長賞、また、(財)日本森林林業振興会会長賞としてそれぞれ一課題が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞に輝いた安芸森林管理署の発表は、森林教室の開催に向けて、配布資料の工夫、現地での対応、引率・安全体制についての取組が高く評価されました。なお、今回の発表課題と審査結果は次頁のとおりです。



最優秀賞を受賞した
安芸森林管理署職員三名

四国森林林業研究発表会課題及び審査結果

発表順	発表課題	発表者		審査結果
		所属	氏名	
1	一ノ谷山80林班「遊々の森」 (いなむら体験の森)の自然再生 への取組について	嶺北森林管理署 業務課係員 瀬戸森林事務所 森林官 業務課長	加藤万実子 原崎 誠 岡部 光明	
2	野根山街道における森林教室の 取組について	安芸森林管理署 業務第一課 係員 総務課 係員 野友森林事務所 係員	田中 梓 益田 舞 平松龍之典	四国森林管理局 局長賞 (最優秀賞)
3	IKONOS衛星画像の導入 による業務の効率化について	(独)森林総合研究所 森林農地整備 センター 徳島水源林整備事務所 造林係主任 造林係主任	祐谷 有恒 木學 良広	四国森林管理局 局長賞 (優秀賞)
4	ふるさと口屋内の自然を大切に ～エコクラブ交流をとおして～	四万十市立口屋内小学校 5年生 6年生	松田 侑也 秋元 友幸 渡辺 大地	四国森林管理局 局長賞 (奨励賞)
5	ものづくりから始まるわたしたち の未来	徳島県美馬市立江原中学校 教諭	岩山 敦志	四国森林管理局 局長賞 (奨励賞)
6	シカ食害防止と生態系に配慮した 治山工事の一考察	四国森林管理局 治山課 国有林治山係長	丸田 泰史	四国森林管理局 局長賞 (優秀賞)
7	低コスト育林のためのポット大 苗育苗技術の開発 ※特別発表	徳島県立農林水産総合技術支援セン ター 森林林業研究所 森林生産環境担当 主任研究員	金磯 牧夫	
8	竹林の管理と竹資源の利用 ※特別発表	愛媛県農林水産研究所 林業研究センター 主任研究員	坪田 幸徳	
9	高知県における山岳遭難救助活 動と登山道について ※特別発表	高知県警察地域課 山岳遭難救助指導員	佃 廣利	
10	山村居住の課題と今後の支援 ※特別発表	(独)森林総合研究所 四国支所 主任研究員	垂水 亜紀	
11	ニホンジカの食害による被害跡 地の自然再生に向けて	四万十川森林環境保全 ふれあいセンター 自然再生指導官	川口 智	

発表順	発表課題	発表者		審査結果
		所属	氏名	
12	シカ被害と戦う	徳島森林管理署 流域管理調整官	柏木喜代幸	
13	みんなでまもろう三嶺の森 ーNPO・行政・大学の協働による 保全活動の事例ー	三嶺の森をまもるみんなの会 高知中部森林管理署流域管理調整官	押岡 茂紀 川口 文明	(財) 日本森林林業振興会会長賞
14	保育作業の省力化～下刈・除伐 作業の省力化の経過報告～	四国森林管理局 森林技術センター 森林技術専門官	鷹野 孝司	(社) 日本森林技術協会理事長賞
15	森林整備の推進に関する協定 について	香川森林管理事務所 調整官(業務) 流域管理調整官	古庄 弘英 伊藤 文男	
16	景観に配慮した資源林の搬出に ついて(最終報告)	四万十森林管理署 三原森林事務所森林官 黒尊森林事務所森林官 窪川森林事務所 係員 治山課治山第二係長	福山 敦之 猪迫 啓司 山下 茂樹 中尾 栄二	四国森林管理局 局長賞(優秀賞)
17	建設機械(小型バックホー)を 活用した基幹歩道の整備について	愛媛森林管理署 業務第二課 森林育成係長 業務第二課 係員	諸星 雄二 崎川 龍也	
18	森林の種類と植物および土壌	高知県立四万十高等学校 自然環境コース3年生	藤原 絵里 芝 千夏	四国森林管理局 局長賞(奨励賞)
19	大豊中学校相撲部 部室兼合宿 所製作	高知県立高知工業高等学校 建築科3年生	楠川 充敏 野本 大智 中越有紀子 山崎 美代 戸田 隆志 中平 力樹	四国森林管理局 局長賞(奨励賞)
20	関西育種場における第二世代精 英樹選抜の取り組みー四国森林管 理局管内のスギ・ヒノキ次代検定 林からの選抜ー ※特別発表	(独) 森林総合研究所 林木育種セン ター 関西育種場 育種課 育種技術係 主任研究員	増山 真美 山野邊太郎	
21	ヒノキ林の伐採が土壌からの温 室効果ガス排出量におよぼす影響 ※特別発表	(独) 森林総合研究所 四国支所 主任研究員	森下 智陽	
22	高知型低コスト木製ガードレ ールの開発(低コスト木製防護柵(構 造物用C種)の開発) ※特別発表	高知県立森林技術センター 資源利用課 主任研究員	東 博文	

各地のたより

地元中学生

「間伐体験」行う
〈ふれあいセンター〉



四万十町立昭和中学校では、四万十町の基幹産業である林業を体験することで、地域や自然環境に対する理解を深めるため毎年、間伐体験を行っています。

今年も、一二月九日、全校生徒二五名が四万十町内の伊豆ヶ谷山国有林で間伐体験を行いました。

当日は四万十森林管理署と十和森林事務所の応援を得て指導にあたりました。

まず、間伐の必要性や安全な作業方法について説明を行い、その後、職員の指導を受けながら生徒一人ひとりが伐採を行いました。

一年生はこの日初めて木を伐る生徒もいて、なか



初めて、鋸を使って間伐体験

なか思うように鋸を扱うことができず、何度も休みながら作業を行い、周囲からは「ガンバレ・ガンバレ」と声がかかりました。

二・三年生は、これまでに何度か経験し、中にはとても上手に鋸を使って伐採する生徒もいました。

作業後の生徒の感想では、「木を伐るのはとても大変」「疲れた」「疲れたけどとても楽しかった」など様々でしたが、地元の産業や自然との関わりを持つことでその重要性などに関心を持ち、今後の学習や生活に役立てて欲しいと考えています。

クリスマスリース・
門松ゲット大作戦
〈高知中部森林管理署〉



昨年一二月一九日高知県立香北青少年の家において、南国市・香南市・香美市在住の小学生及びその保護者二三名を対象にクリスマスリース、ミニ門松製作教室を開催しました。

今回は対象年齢が小学一年生からと低かったため、作製する前に、紙芝居で森林の働きについて理解を深めました。

その後、クリスマスリース作りコーナーでは、あらかじめ編んでおいたカズラにスギ・ヒノキ・モミ・アセビのうちから好みの葉を差し込み、輪を形作っていききました。これに色づけした松かさやリボンなどを飾り付け完成させました。

ミニ門松作りコーナーでは、三本の竹筒の周りにサ



ミニ門松完成

クラやミズメの枝を一定の長さに切って並べ、麻紐で固定し、これにゴヨウマツやナンテンなどを飾って仕上げました。

作品完成後に回答いただいたアンケートには「ノコギリを使うのは難しかったけど作品づくりは楽しかったです」「リース作りとても楽しかったです」「森を大切にしたい」「山はいろいろな働きをしていることがわかった」などの意見があり、作品づくりの楽しさはもちろん、森林への関心を高める良い機会になったのではと考えています。





四万十森林管理署

藤の川森林事務所

首席森林官 増永勝也

藤の川森林事務所は高知県西部、四万十市西土佐の四万十川本流と支流の広見川の合流地点に位置しています。

西土佐地域は、合流地点の江川崎を中心に各支流沿いに集落が点在し、約九一%を森林が占めるなど農林業を中心とした典型的な農山村地域です。

近年は、「最後の清流四万十川」のキャッチフレーズで四万十川がブームになり、夏場のキャンプ、カヌー等の川下りなどで多くの観光客が訪れております。

また、一〇月には、四万十川沿いを全国のランナー約一五〇〇名が駆け抜ける四万十川ウルトラ一〇〇キロマラソンのルートになっており、地域住民総出で参

加者のサポートや、応援を行い地域活性化の要因のひとつとなっています。

当森林事務所が管理する国有林の大半はスギ・ヒノキの人工林で、国有林と官行造林を併せ約二、七〇〇畝を管理しています。

管内国有林の特徴としては、一つには、シイ、カシを主とする広葉樹林の中にヒノキ、モミ、ツガの古木が点在する天然林からなる土佐堂ヶ森風景林があります。



堂ヶ森山頂(地蔵堂)

堂ヶ森山頂には、地蔵堂があり、古くから人々の信仰を集め「霊山・堂ヶ森」として地域の方々から親しまれており、毎年五月五日には、堂ヶ森祭りが開催

されます。

当日は、それぞれ三つの地域の方々が、お堂のある山頂に集まり、餅まきや、女相撲大会等が行われています。また、堂ヶ森周辺の歩道には、主な樹木に樹木名板を取り付けてあり、森林環境教育のフィールドとしても活用しています。



ネイチャーゲーム

二つめには、「西土佐」郷土の森です。

地域の人々から親しまれてきた天然ヒノキの名林を後世に引き継ぐため、平成三年四月に「西土佐」郷土の森として、四万十市西土佐(当時、西土佐村)と四国森林管理局(当時、高知営林局)との間で保存協定が

締結されました。

区域内には、樹齢二〇〇〜三〇〇年、樹高三五m、幹周り三三三cmの地域の象徴ともいえる天然ヒノキがそびえ立っており、平成一二年四月には、林野庁が選定している「森の巨人一〇〇選」に選ばれ、『四万十椴仙人』と名称が付けられ人々に親しまれています。



四万十の椴仙人

この郷土の森は、隣接する「若人の森」とあわせて、林内には歩道、休憩所が整備されており、森林浴などの散策を楽しむこともできます。

当森林事務所の業務内容としては、造林事業(ニホンジカ防護ネット柵修理等、除伐、保育間伐等)、林道維持管理、立木販売、境界管理、林野巡視等の事業を行っています。



レンタルバックホウによる林道修繕

また、レンタルバックホウによる林道補修の土木事業と生産・造林の請負事業が主体となっています。

特に、当森林事務所管内でも、ニホンジカによる、食害被害が深刻です。現状では、防護ネット柵等を使用して防いでいますが、シカの頭数制限も必要だと考えます。

最後に、首席森林官として、署の窓口的業務や、若手職員の人材育成など、大きな使命を果たしつつ、今後は、事務所職員が一体となり、地域に根ざした気配りがある職場を目指していきますよう頑張っていくと考えています。